

普及活動情勢報告（令和3年12月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

優良水稲種子の生産に向けて～田井採種組合反省会～



反省会の様子

12月16日、土佐町で、田井採種組合の生産者、JA、普及所等17名が参加して反省会を開催しました。

普及所からは、本年のほ場審査・生産物審査の結果を報告するとともに、嶺北地域において発生が多かった稲こうじ病、穂いもち病対策を中心に次作に向けて指導しました。

参加者からは、次作に向けた薬剤の選定や、肥料についての質問があがるとともに、今後の栽培技術の改善に向けた情報交換が行われました。

今後も普及所は、混種事故の防止、優良な種子生産のために、綿密に栽培指導を行っていきます。

次世代園芸ハウス営農開始にむけて～関係機関連絡会議～



試験苗を確認する参加者

エフビットファームこうち(株)(以下「エフビット」)は、本山町に建設中の次世代型ハウスでの営農開始に向け、準備を進めています。

関係機関とエフビットとの連絡会議が6月から毎月行われており、普及所はこの連絡会議に参画するとともに、本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクトに位置づく、本山町農業公社の育苗事業などに対して技術指導を行ってきました。

12月9日に本山町役場で開催された連絡会議には、エフビットと本山町、JA、普及所等の計10名が参加し、進捗状況と試験育苗された苗の確認、従業員を対象に普及所が実施する農業研修の計画などを検討しました。

普及所は、今後もクラスタープロジェクトに位置づく活動を支援します。

次作での病害撲滅を目指して！ ～米ナス反省会～



土壌診断について講習で学ぶ生産者

12月10日、JA高知県れいほく園芸部米ナス部会は、JA高知県本山支所で米ナス部会反省会を開催し、部会員9名が参加しました。

JA高知県からは今年度の活動及び出荷実績について報告があり、その後農薬メーカーより土壌診断と土壌病害対策について診断結果を基に情報提供がありました。

また、普及所からは、栽培終了時の病害対策について説明しました。生産者からは、「くん煙剤を使用するタイミングは？」など活発に質問が出されました。

今後も普及所は、JAと連携して病害対策を推進し、収量・品質の向上に取り組みます。

GAPを徹底しよう ～カラーピーマン部会反省会～



1年の振り返り

12月20日、JA高知県れいほく園芸部カラーピーマン部会は反省会を開催し、部会員11名が参加しました。

JAからは令和3年度の出荷実績について、普及所からは栽培終了時の病害対策と農作業安全について説明しました。農作業安全については、身近にひそむ危険に対して生産者の意識向上につながるように、農作業事故の動画を用いて注意喚起を図りました。

生産者からは「事故の動画を見て、農作業事故を身近に意識した。気を付けないかん。」との声が聞かれました。

今後も普及所は、農作業安全をはじめGAPの地域での取り組みを進めます。

サル対策を学ぶ ～鳥獣害対策研修～



地域ぐるみの運営について学ぶ参加者

11月26日に、鳥獣対策専門員と地区代表2名、大豊町及び普及所の職員が、県のサル被害総合対策モデル事業でモデル集落となっている大豊町の連火集落で、サル対策の現状と課題を現地確認しました。

鳥獣対策専門員と地区代表からサル被害の実態と特徴、捕獲檻の仕組み、電気柵と金網の複合柵を説明し、地域で話し合い運営している状況を確認し合いました。

管内ではサルの目撃される範囲が年々拡大しており、他の町でも捕獲檻の設置が計画されているなど、サル対策は重要な課題です。

普及所は今後も農作物の鳥獣害対策への支援を行っていきます。

大豊町の伝統作物・郷土料理を後世に伝えよう ～おおとよ小学校で伝統作物・郷土料理講習会を開催～



関心高く次々と質問する子どもたち

大豊地区農漁村女性グループ研究会は、12月16日におおとよ小学校の3年生11名を対象に伝統作物・郷土料理講習会を開催し、大豊の郷土料理「こんちん」の試食と、大豊町の伝統作物である銀プロウ豆とぜんまいなどの地域食材を紹介しました。

普及所は、講習会の計画策定や講習会資料の作成等を支援しました。講習会に参加した生徒からは「なぜ郷土料理を教える活動をしているのか」、「こんちんの名前の由来は？」など活発な質問があり、研究会の活動や大豊町の伝統作物や郷土料理への理解が深まった様子でした。

普及所では、今後も大豊地区農漁村女性グループ研究会の、地域農業への理解と関心を高める食農活動を支援していきます。